

県内主要河川におけるヤマメ・サクラマス釣獲状況（令和2年度）

小原明香・小堀功男

目的

県内ではヤマメ（川で一生活を過ごすもの）やサクラマス（海へ降り大型になって川に戻ってきたもの）釣りが盛んであるが、詳細な利用実態は明らかになっていない。そこで、今後の持続的利用に向けた取組に役立てるべく、釣果情報を収集し、県内主要河川におけるヤマメ・サクラマスの釣獲実態を調査した。また、那珂川における主産卵場である木ノ俣川における産卵床調査を実施した。

方法

釣果情報 昨年と同様に2020年シーズン中（3月1日から9月19日）における那珂川及び鬼怒川でのヤマメ・サクラマスの釣果情報を収集した。¹⁾

産卵床調査 9月20日から11月24日にかけて那珂川（木ノ俣川及び油井上下流）を踏査し、産卵床の数、産卵床にいる親魚の尾数や大きさ及びヤマメとサクラマスの違いを観察した。観察方法は既報に従った。¹⁾

結果および考察

那珂川におけるヤマメとサクラマスの釣獲尾数 2020年は5名の釣り人から9尾の釣果情報の投稿があった。外部形態の特徴から回遊型を判別した結果、ヤマメが77.8%（7尾）、サクラマスが22.2%（2尾）であった（図1）。また、全長31cm以上の個体はサクラマス1個体のみであり、その全長は36cmであった。

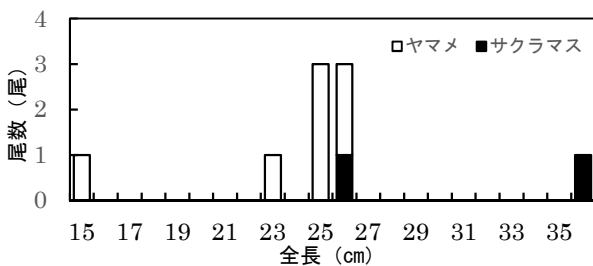


図1 那珂川におけるヤマメ・サクラマスの釣獲尾数

那珂川におけるヤマメ・サクラマスの釣獲時期 ヤマメは3月上旬から9月中旬まで釣獲され、5月における釣果が最も多かった（図2）。

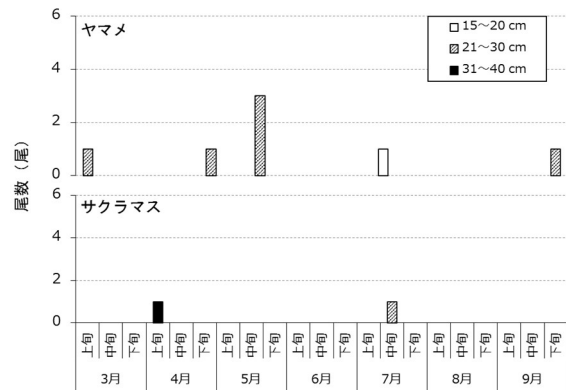


図2 那珂川におけるヤマメ・サクラマスの釣獲時期

鬼怒川におけるヤマメとサクラマスの釣獲尾数 2020年は16名の釣り人から23尾の釣果情報の投稿があった。外部形態の特徴から回遊型を判別した結果、ヤマメが56.5%（13尾）、サクラマスが43.5%（10尾）であった（図3）。また、10尾すべて全長31cm以上であり、その最大全長は44cmであった。

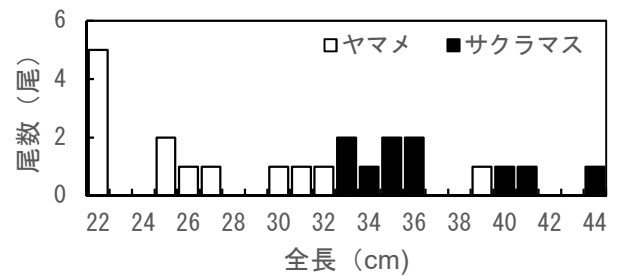


図3 鬼怒川におけるヤマメ・サクラマスの釣獲尾数

鬼怒川におけるヤマメ・サクラマスの釣獲時期 ヤマメは3月上旬から7月下旬まで釣獲され、6月における釣果が最も多かった（図4）。それに対し、サクラマスは3月中旬から9月中旬まで釣果報告があり、最も報告が多かった月は6月だった。

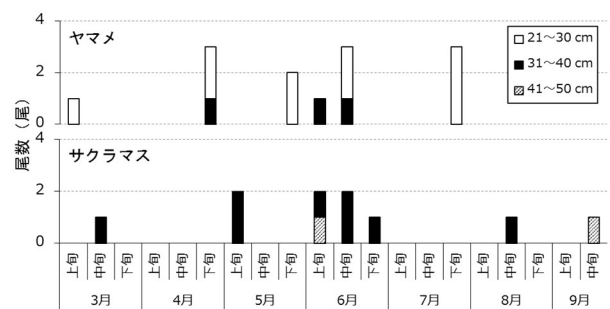


図4 鬼怒川におけるヤマメ・サクラマス釣獲時期

那珂川における産卵床調査 那珂川におけるサクラマスの主産卵場である那珂川（木ノ俣川及び油井上下流）において、サクラマス親魚がいる産卵床は木ノ俣川1か所のみ確認できた。サクラマスの産卵場調査は平成28(2016)年から継続して調査を行っているが、産卵床数は年々減少傾向にある（図5）。特に2019年は台風19号による増水の影響が大きかったと考えられる。いっぽう2020年には大きな出水はなく、観察されたサクラマスも1個体のみであったことから、産卵床数に比例するとされている資源量は、⁹⁾ 今後も大きく減少する可能性がある。

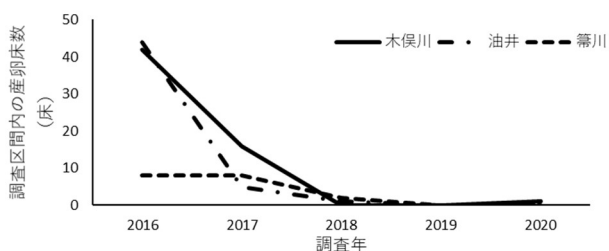


図5 那珂川におけるサクラマスの産卵床数推移

引用文献

- 1) 網川孝俊・横塚哲也. 那珂川におけるヤマメ・サクラマスの釣獲状況（平成29年度）. 栃木県水産試験場研究報告. 2019；62：43-44.
- 2) 下田和孝・川村洋司. 網走川支流ドードロマップ川における魚道設置前後のサクラマス産卵床の分布（短報）. 北水試研報. 2014；85：41-46.

（指導環境室）